

# IADP NewsLetter

IADP International Association of Dynamic Psychotherapy

第18回年次大会プレカンファレンス

## 東日本大震災サポートグループ-ひとりひとりの心の復興と地域の再生- 開催 PTSD予防・治療の第3ステップへの到達と、次のステップへ



第18回IADP年次大会へのご参集を

—心理療法家として今こそその支援展開を共に—



### 小谷 英文

国際力動的心理療法研究会 (IADP) 第18回年次大会会長・理事長／国際基督教大学教授

東日本大震災から1年を経て尚、人々が『心的外傷』を受け容れることには、時間がかかっている。日本人にとって、とりわけ東北の人々にとって、突然の大災害に堪えることは難しくないことなのか、あるいは甚だしく難しいことなのか、考えてみる余地がある。国際的視野からみて、政府が成した震災への危機対応は決して十分なものではなかったし、現在も問題の積み残しが重なっているにもかかわらず、宮城、岩手、福島の人々の沈着な現実への対応は称賛に値する。暴動も社会秩序の混乱も生じなかった。海外のメディアも災害支援専門家の様な反応は、このことの驚嘆にあった。実際に、日本人全般にわたって被災者が被る衝撃的な外傷には関心が向いて来なかった。「頑張ろう 東北」、「頑張ろう 日本」の合唱激励が、個人及び人々の痛みをかばっている。悪くないが、それで十分だろうか。組織分析の専門家であり、現在、国際集団精神療法集団過程学会 (IAGP) の次期会長 Dr. David Gutmann が、丁度震災1周年にあたる3月11日東京で開かれた日本

集団精神療学会の年次大会において、福島原発問題に対する日本人の反応を分析する作業仮説を呈示した。日本人にとって『受容 (acceptance)』とは何を意味するのか。それは運命論ではないのか。直面化とも言うべき作業仮説であった。我々は、突然の大災害に対する態度を、彼が呈示する『創立外傷 (founding trauma)』の概念を持って根本から考え直す必要があると、彼は主張したのである。確かに、日本人と他の国々の人々の間では、『受容』の意味する所が異なっているのかもしれない。広島そして長崎の人々もまた、人間の業による大惨事の悲惨な事態に対して、驚くばかりの早さで鎮静化し沈黙を守り、外傷に堪えた。原爆死没者慰霊碑の「安らかに眠ってください 過ちは繰返しませぬから」と謳う碑文の理解を巡って交わされる疑問や反発も、日本人にとっての「受容」の意を問う論争と言えよう。

東日本大震災から、とりわけ自分自身を含めた人々の反応から学ぶべきものが多くあるに違いない。

3月24-25日のIADPプレカンファレンスの翌日、私は1通のメールを受信した。それは震災直後から東北被災地に住む人々、とりわけ子どもたち、両親、そして教師の心理支援という極めて困難な使命を果たし続けている心理学者、足立智昭教授から届いたものであった。

2ページに続く

小谷先生、プレ・カンファレンスのスタッフの皆様

おはようございます。  
24日、25日と大変お疲れ様でした。

小谷先生、Buchele 先生、スタッフの皆様、そして東北、全国から集まった参加者の皆さん、集うべき人が集ったカンファレンスだったと思いました。

皆様が育てられた種は、東北の地に確かにまかれました。  
この種が、芽を出し、ゆっくりと成長し、やがては花を咲かせ実となることを祈念しております。

宮城学院女子大学 足立智昭

第 18 回 IADP プレカンファレンスとして行われた専門家と市民のための 2 日間にわたるワークショップを通して、我々は東日本における PTSD 予防と治療の第 3 ステップに到達したと認識した。IADP の会長としてまた第 18 回 IADP 年次大会会長として、私は、ここに足立教授のメッセージを、東日本における我々の活動を支援し続けて下さっている世界の同僚達と分かち合えることを光栄にかつ幸せに思う。PTSD 予防と治療をさらに幅広く、様々な地域にわたる活動へと展開する第 4 ステップへと進展させるべく、共に努力を重ねよう。9 月に開かれる IADP 第 18 回大会は、国内外からお集まりいただくさらに多くのエキスパートの方々、会員の皆さん方、そして市民の方々の参集をもって、被災者支援の取り組みに大きな弾みをつけるものとなるに違いない。

今ある外傷と同時に創立外傷の視点も入れて、大災害に対する我々人間の反応基盤を心理力動的に再考し、研究し、その意味を追究して行こう。

## 「IADP第18回年次大会 プレ・カンファレンス」を終えて



### 足立 智昭

宮城学院女子大学教授・発達科学研究  
所 所長／震災復興心理・教育臨床セン  
ター 所長

このプレ・カンファレンスが、参加した皆さんに「心の再生と地域の復興」に向けて、深い学びと大きな勇気を与えたことに、心からの敬意と感謝の気持ちを申し上げます。また、プレ・カンファレンスの地元共催者の一人として、会場の準備等にあたらせていただきましたことに、大変誇りを感じております。

さて、今、手元の資料を見ますと、プレ・カンファレンスを仙台国際センターで開催することを IADP 事務局長の橋本和典先生に提言し、仮予約を入れたのが 2011 年 8 月 23 日でした。それから、プレ・カンファレンスまでの 7 ヶ月の間、数回、実際に仙台国際センターを訪問し、私なりのカンファレンスのイメージをセンターの担当者にお伝えし、当日を迎えることになりました。

広報では、宮城県、仙台市教育委員会の後援をいただき、また地元の 3 つの心理士会（臨床心理士会宮城県支部、臨床発達心理士会東北支部、学校心理士会福島・宮城支部）などの協力をいただくことにより、短期間ではありましたが、このカンファレンスを必要とされている方々に、その情報を伝えることが出来ました。

そして、小谷英文先生、ボニー・ブークリー先生の素晴らしいご講演や IADP スタッフによる個性溢れる「アゴラ」などのワークショップにより、参加者との間に、何とも言いえない一体感を感じることでできる素晴らしい会となりました。参加した多くの皆さんは、あの 3.11 以降、仕事上、多くのものを

背負って来られましたが、その荷物を一旦降ろし、それを改めて見つめ直す心の余裕を得て、それぞれの職場へと戻られたものと確信しています。

また、個人的には、現在、先天疾患を有するお子さんを出産した母親と、乳幼児の愛着形成を縦断的に研究していることから、トラウマと愛着との関係を強調されたブークリー先生のお話しに、大変興味を持ちました。実際、3.11 以降、PTSD と思われる症状を呈した幼児は、ほぼ例外なく、その家庭に葛藤を抱えており、彼らの支援に、愛着が一つのテーマとなることを、改めて認識致しました。

さて、最後に、お昼に準備したお弁当はいかがでしたか？海外からの講師をお迎えしていることや、県外の参加者も多いことから、仙台らしいお弁当をと思い、ケータリング会社とかなり吟味したものを用意させていただきました。しかし、スタッフの皆さんは、お弁当どころではなかったようで、弁当をかつ込んでおられましたね。今年、9月の本大会では、ぜひ、お弁当を味わっていただく余裕をもって来仙いただくことを心から期待しております。



## 花井 俊紀

国際力動的心理療法研究会第 18 回年次大会広報責任者 (Public Relations Chair) / PAS 心理教育研究所

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の発生以来、国際力動的心理療法研究会 (IADP) は、力動的心理療法 (ダイナミックサイコセラピー) の立場から、震災初期対応 (ファーストエイド) 支援および震災復興支援に取り組んでいる。その取り組みの一環として、IADP は 2012 年に開催する第 18 回年次大会の宮城県仙台市での開催を決定した。そして、この度 IADP は、第 18 回年次大会のプレ・カンファレンスとして、「東日本大震災サポートグループひとりひとりの心の復興と地域の再生」を、東日本大震災から 1 年を経た 2012 年 3 月 24 日 (土)、25 日 (日) に、仙台市の仙台国際センターにおいて開催した。

プレ・カンファレンスは、IADP の設立者であり現理事長、そして第 18 回年次大会会長を務める小谷英文博士 (国際基督教大学教授)、国際集団精神療法・集団過程学会 (IAGP) の理事で心的外傷の治療に関する国際的指導者であるボニー・ブークリー博士、震災復興心理・教育臨床センターの代表である足立智昭博士 (宮城学院女子大学教授) の 3 名が開催を呼びかけた。その目的は、2 日間の講演およびワークショップを通じて、東日本大震災を体験した被災者、支援者が一同に集い、心の荷下ろしをし、新たな活力を皆で高めようとするにあった。

当日、被災地の宮城県・岩手県・福島県から、首都圏から、そして静岡・山梨・福岡からと、日本各地から 2 日間の 4 つのプログラムに計 130 名の参加者が集まった。参加者の職種は、臨床心理士、学校心理士、発達臨床心理士、精神科医、看護師、保健師、ソーシャルワーカー、教師、保育士、大学教授、企業人、主婦と、多彩であった。

24 日 (土) 午前のプログラムは、メンタルヘルス専門家向けワークショップ「集団における外傷反応治療的対応」であった。初めに、ブークリー博士による、心的外傷、PTSD (心的外傷後ストレス障害)、そしてその治療に関する世界標準の正しい知識を伝える講義が行われた。その後、ブークリー博士が参

加者の中からメンバーを募り、支持的グループを実施した。グループでは、ブークリー博士のリーダーシップとそれを支える存在感が際立ち、メンバーが安全に自分の体験を語ることを助けていた。

24 日午後のプログラムは、一般・専門家向け講演「震災を超えていく地域の再生と再構築」であった。ブークリー博士によって、災害後に地域の再生のために必要な支援、リーダーシップ、専門家の役割について講義がなされた。質疑応答の中で、被災に関わる体験・感情を安全に語り、理解し合い、また心に収め直すことが、心の平穏を取り戻す助けとなり、またそのように心を動かし、つらい体験と付き合っていくことの中に、新たな自分を見つける豊かな道があることが繰り返し確認された。

25 日 (日) 午前のプログラムは、専門家向けワークショップ「サポートグループの始め方」であった。初めに小谷博士からサポートグループに関するミニ講義があり、次に小谷博士が参加者の中からメンバーを募り、サポートグループを 2 セッション実施した。立場や状況の異なるメンバーが、それぞれ震災に関わる多様な体験を大事に語り、荷を下ろし、また心に収め直す空間が、小谷博士のリーダーシップの下、グループメンバー、そしてそれを見守る参加者、その場の全員の協力によって創られた。

25 日午後のプログラムは、一般・専門家向けワークショップ「アゴラー東日本大震災サポートグループ」であった。2 日間の学びや体験を土台に、心を動かし、心に触れ、荷下ろしをするコミュニティを参加者全員で創り上げた。初めに、参加者の中から提案されたインタレストグループ (ミニワークショップ (自我起動鍛錬プログラム、教育的対話トレーニング)、物語作りグループ、読み聞かせグループ、ディスカッショングループ、など) が行われた。参加者は自分の関心に基づいてそれぞれのグループに参加した。そして、最後に 1 時間、全員で体験を語り合う大グループが行われた。

一つ一つのプログラムの内容が濃いものであったと同時に、ひとりひとりが震災に関わる自分と他者の体験に向かい合う場と時間と空間が着実に創られていく 2 日間であった。

## 震災復興心理・教育臨床センター

—震災ストレスの荷下ろしから、心の復興へ—

被災者の個別心理相談・支援者の相談のための場所としてご利用いただけます。また、毎回、心を動かし活力を取り戻すためのプログラムを用意しています。

国内、そして海外からの支援により、無料でご利用いただけます。

場所：宮城学院女子大学 発達科学研究所内

担当：小谷 英文、足立 智昭、西川 昌弘、西浦 和樹、石川 与志也、髭 香代子、中村 有希、中村 麻耶、花井 俊紀、荻本 快、他

開室日 (月 2 回土曜日)：5 月 12, 26 日、6 月 2, 9 日、7 月 7, 21 日、8 月 11, 25 日

どんな相談ができるのか

大人の場合：心身の不調。虚脱感、喪失感、不安、苛立ち、不眠、食の不調、孤立、など

子どもの場合：元気がない、子どもがえり、広場が怖い、感情暴発、地震・津波遊び、遊ばない、食べない、不登校、など

支援者の場合：被災者対応に関するご相談、支援者自身のストレスケア、など

詳細は、センターウェブサイトへ <http://ejcenter.wordpress.com/>

## 第18回年次大会のお知らせ

### 大会テーマ

災害と外傷からの回復のための心理的トリートメント

### 大会会長

小谷 英文

(元国際集団精神療法・集団過程学会 理事 / IADP 理事長 / 日本)

### 大会副会長

セス・アロンソン

(ウィリアム・アロンソン・ホワイト研究所 / アメリカ合衆国)

**日程**：2012年9月1日（土）—3日（月）

**会場**：宮城学院女子大学（宮城県仙台市）

### ゲスト・ファカルティ：

セス・アロンソン、ボニー・ブークリー、ジュディス・デイビス、モートン・キッセン、北山 修、フェリックス・ド・メンデルスゾーン、スーザン・ノイマン、田野井 慶太郎、ラルフ・モーラ、他

### プログラム

<9月1日（土）>

大会会長小講演 & 大グループ（専門家向け）  
「災害・外傷・プロフェッショナルリティ」  
講演者・コンダクター：小谷 英文

大会基調講演（一般公開）

「大災害からの復興のための心理的要因と治療」  
講演者：ボニー・ブークリー

大会フォーラム（一般公開）

司会：セス・アロンソン / 西川 昌弘  
パネリスト：田野井 慶太郎・足立 智昭、他

<9月2日（日）ワークショップ>

専門家向けワークショップ

ラルフ・モーラ、セス・アロンソン、  
ジュディス・デイビス、他

一般向けワークショップ

モートン・キッセン、ボニー・ブークリー、  
小谷 英文、他

<9月3日（月）専門家向け事例検討>

事例検討

スーパーバイザー：北山 修、セス・アロンソン、  
ボニー・ブークリー、ラルフ・モーラ、他

全体ケースセミナー

スーパーバイザー：小谷 英文

**参加申し込み**：5月中旬開始

大会ウェブサイト：

<http://www.iadp.info/>

## 災害支援プログラム寄付金の使途報告

災害支援プログラム寄付金をお寄せいただき誠にありがとうございました。平成23年11月1日から平成24年3月25日までにお預かりした、寄付金の使用状況についてお知らせします。

寄付金合計：798,000円（45件）

内容	寄付金充当額
施設使用料	300,000円
海外招聘者招聘費用	498,000円
合計	798,000円

多くの方から寄付をお寄せいただいております。心よりお礼申し上げます。今回の支援活動が必要な方に広く行き渡るように、引き続き、9月の本大会災害支援プログラム開催のための「復興支援事業寄附金」へのご協力をどうぞ、よろしく申し上げます（2012年9月3日まで）。

### 寄付・協賛いただいた方々（2012年4月24日現在）

法人（五十音順・敬称略）

医療法人 いたう内科小児科  
(株) 沖縄教育出版  
湘南病院  
山梨英和大学

個人（五十音順・敬称略）

石野 泉 / 井上 尚代 / 今村 理洋 / 植松 晃子 /  
宇佐美 しおり / 大出 幹子 / 大野 尚子 / 小澤 京子 /  
荻本 快 / 川内 奈緒 / 川村 良枝 / 塩田 まり /  
設楽 友崇 / 嶋田 一樹 / 関戸 直子 / 高島 久美子 /  
高田 毅 / 武野 顕吾 / 田中 令子 / 田中 怜子 /  
津田 潤子 / 出川 寛子 / 苫米地 憲昭 / 中村 有希 /  
中村 麻耶 / 西川 昌弘 / 西村 馨 / 能 幸夫 /  
橋本 和典 / 橋本 ゆき子 / 花井 俊紀 / 髭 香代子 /  
福島 晴美 / 村田 香織 / 望月 裕子 / 森岡 あすか /  
森脇 正弘 / 八子 さとみ / 山下 由紀子 / 山田 寛 /  
横山 哲太郎

キリスト教を基盤として、次の時代を担う人材を育てています。



# 山梨英和大学

## 山梨英和大学



多様な社会に対応した、7つのコースを展開。

心理臨床コース	臨床心理士をめざして、実践的な心理学を学びます
心理社会コース	ビジネスの現場で人間関係を調整する力を身につけます
情報ビジネスコース	「IT力」で社会に貢献します
ビジネス・コミュニケーションコース	ビジネスパーソンとして活躍できる力を身につけます
英語・英語文化圏コース	急速に変化する社会に対応できる国際性を養います
日本語・日本文化コース	人と人をつなぐ、豊かな表現力と柔軟な思考力を培います
総合人間文化コース	変化を先取りする「自分仕様」の学びができます

## 山梨英和大学大学院



山梨県内唯一の「臨床心理士養成一種指定大学院」。

本大学院を修了し、臨床心理士資格を取得した者は、53名(2006年～2010年)に上っています。現在、山梨県臨床心理士会の事務局は、本大学にあり、会員数約120名中、その3分の1は本大学院出身者であり、名実ともに山梨県の臨床心理領域を担っています。

## 東日本大震災被災者支援特別入学制度

東日本大震災で被災され、大学進学を断念されかけているあなたの、ひたむきな熱意と自助努力に山梨英和大学が全面的なバックアップをして、大学での学びに橋を架けていく制度です。

### ■対象者

東日本大震災(福島原発事故を含む)で被災した2013年4月大学入学予定者

注)転入学・編入学を同時に受け入れます。詳細はお問い合わせください。

### ■支援内容

1. 入学検定料を免除します。
2. 卒業までの学費(入学金を含む)を全額免除します。
3. 入学から4年間の生活費を毎月5万円助成します。
4. 住居は冷蔵庫、洗濯機、ベッド、机等の設備付きのアパートを本学負担で準備します。4年間のアパートの家賃は本学が負担します。

■選考方法 書類審査(提出書類により可否を判定します。)

■問い合わせ先 山梨英和大学 広報戦略部

〒400-8555 山梨県甲府市横根町888 TEL:055-223-6022 FAX:055-223-6025